

公共図書館職員のモチベーション向上についての研究

木下奏

社会の情報化が進み図書館がその流れにどのように対応していけばいいかが問題になってきている。2006年には「これからの図書館像」が発表されたことをきっかけに全国的に公共図書館で様々な取り組みが行われるようになってきた。そこで本研究では公共図書館職員のモチベーションに着目した。職員のモチベーションを上げることでより職員一人ひとりが図書館の事を考えて行動するようになり結果的に図書館のサービスの質の向上につながると考えたためである。そのため本研究では公共図書館職員のモチベーションの現状を測定し、その傾向を明らかにすることを目的としている。

本研究ではモチベーションを職場での意欲、積極的な問題解決、仕事への興味関心と定義した。このモチベーションを測定するために心理測定尺度の「認知欲求尺度」「達成動機測定尺度」「生きがい感スケール」の3つの尺度を用いた。対象は雇用形態や年齢を問わず公共図書館で働く全ての職員とした。質問紙調査を依頼した図書館は「日本の図書館 統計と年鑑 2011年版」より無作為に選んだ公共図書館本館を142館とし、各館の職員数を考慮し質問紙を送付した。送付した質問紙は1660人分であった。

今回用いた「達成動機測定尺度」は目標を成し遂げたいという動機を測る尺度である。また「認知欲求尺度」は普段考えているか、考えることに対して動機があるかを測る尺度であり、「生きがい感スケール」は現在の状態に満足しているか、自分の存在価値を感じているかなどを測る尺度である。これら3つの尺度の質問項目に、性別、年齢、雇用形態、司書資格の有無などを問うたフェイスシートを加えた質問紙の作成した。

質問紙は98館(69%)、723人(43%)から回収できた。フェイスシートの稿も別に尺度を集計し、その平均を比較し傾向を分析した。達成動機では正規職員と非正規職員との間に差があり非正規職員の方が正規職員よりも達成動機が高いことがわかった。また認知欲求では正規職員の資格を持っていない人が他の人よりも認知欲求が有意に低いことが明らかになった。

本研究により公共図書館職員のモチベーションについて雇用形態、司書資格の有無という支店から傾向を明らかにすることができ、公共図書館職員のモチベーションを明らかにすることに貢献したといえる。今後はさらに詳細な様々な視点から分析を行い、具体的に影響を及ぼしていると考えられる要因を明らかにする。その結果を利用して公共図書館職員のモチベーションを効果的に向上させる手法を検討する。

(指導教員 松村敦)